

日本産業衛生学会東海地方会

地方会ニュース

発行所 東海地方会ニュース編集事務局
〒480-1195
愛知県長久手市岩作雁又1番地1
愛知医科大学医学部衛生学講座内
電話 (0561) 62-3580
FAX (0561) 62-3580
発行責任者 柴田 英治

題字 皿井 進筆

巻頭言

第23回産業医・産業看護全国協議会を終えて

大同特殊鋼(株) 齊藤 政彦



新年あけましておめでとうございます。

昨年は第23回産業医・産業看護全国協議会を開催するに当たって多大なご協力を賜り、大変ありがとうございました。おかげさまで、参加者1,032

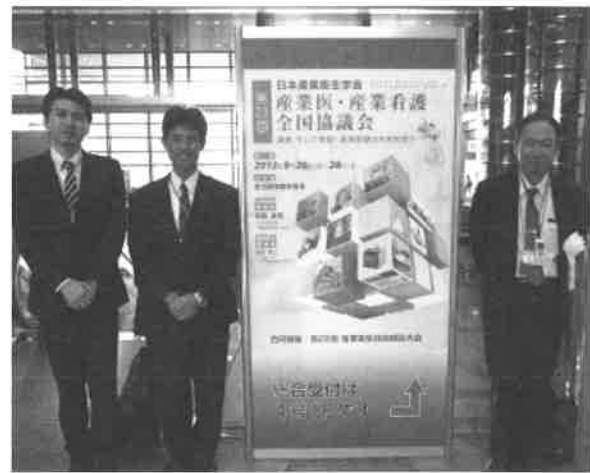
名と、予想を超えての盛会で、かつ大きな問題もなく終えることができ、ホッとしています。思えば、2年前の理事会で、正式に企画運営委員長を拝命し、直ちに会場探しに奔走しましたが、秋は学会集中期のためになかなか見つからず、名古屋国際会議場の9月最終枠をぎりぎり確保できたという冷や汗ものでした。その後、協賛金やランチョンセミナー、広告、機器展示などの募集、各企画の担当と会場の割り当て、運営事務局とのやりとりなど、ずっとこのことが頭を離れない生活が続きました。

一世代のことと思いついて、らしさを前面に出したつもりです。ヘルメット姿の写真を抄録集に掲載し、意外に好評だったようです。また懇親会では『いきなり乾杯』を敢行し、さらに大村秀章愛知県知事がサプライズ登場してくれました。

細かいトラブルもありました。第一は四部会合同セミナーが異例の飛び石開催になったことです。久永先生から突然連絡が入った時は、正直慌てましたが、何事も挑戦と前向きに捉えて日程変更しました。さらに参加者数が予想以上で、抄録集が不足して急遽コピーで代用したというハプニングもありました。それもこれも良い思い出です。

今回学会運営を任せられ、一産業医としては身に余る成功を収めることができた今、しみじみ思うのは、人間関係の大切さです。企画運営委員や運営実行委員の

皆さま方に多大なご尽力賜り、また、愛知県医師会や関係諸機関の皆さんに助けていただいたからこそその成功と、あらためて深く感謝申し上げます。



立て看板の前に：左から抄録集担当の上原先生、実行委員長の石川先生、齊藤の順



運営実行委員のメンバー

第23回産業医・産業看護全国協議会特集

メイン企画

大討論会：産業保健の未来、3つの課題を問う

中部大学 城 憲 秀



第23回産業医・産業看護全国協議会のメイン企画は、協議会最終日の9月28日(土)に開催されました。協議会最終日なので参加者は少なくなると勝手に予想していましたが、それに反して多数の聴衆が詰めかけてくれました。産業衛生に携わる産業医や産業看護職はじめ専門職の方々の熱心さをあらためて感じることができました。

そのような熱い雰囲気の中で、このメイン企画は、参加者がいっそう熱くなる3つの話題についてディベート形式を主体として行われました。

最初の話題は新型うつ病の責任は企業なのか個人なのかに関する議論でした。新日鐵住金の宮本俊明先生のこれまた熱い熱い弁舌は企業責任を問うもので、一方の討論相手、橋口克頼先生(パナソニック)は冷静な論理展開から個人責任の重要性を訴えかけられました。2つ目の演題は次代の主役として衛生管理者と看

護職の両者の役割を考えさせる議論がなされました。この話題はディベートとはしませんでした。対木先生(ニコン)、中尾先生(中尾労働衛生コンサルタント事務所)のお二人は両者の仕事の違いを述べるとともに、両職種連携の大事さを強調されたように拝察しました。最後の話題は、産業医大の堀江先生のひとり舞台上、「労働安全衛生法」による安全衛生に対する法的規制の拡大vs縮小を両側の立場から議論されました。先生の講演から将来の産業衛生をどう推進していくのかについて考える機会を得たように思います。

今回の企画では、多様な話題を取り扱ったため、参加者にとっては、ひとつひとつが食い足りないところもあったかもしれません。しかし、現代の産業保健専門職が直面する課題について再度見直すよい契機になったのではないかと推察しております。これをきっかけとして、よりよい産業保健サービスが提供できるようになるとよいと切に思ったところです。参加した皆様の熱い思いが具現化されることを願って筆を擱きます。



シンポジウム1

発達障害の特徴と職場での適切な接し方

アイシン・エイ・ダブリュ 村崎元五



表題のシンポジウムで、浜松医大の巽先生と共に、座長を務めさせていただきました。昨今、産業保健の現場で課題となっている「発達障害」と「パーソナリティ障害」が別々のセッションで、シンポジウムとして取り上げていただいたことは画期的なことで、まずは、企画運営委員長の斉藤先生に感謝を申し上げたいと思います。

シンポ1では、この中の「発達障害」を取り上げ、産業医、精神科医、産業看護職、障害者職業センター相談員と、5名のシンポジストの先生方に各々の立場から発表していただきました。また、討議の中で、個人情報管理についての指定発言もいただきました。

フロアからの発言の中では、発達障害であっても、普通の人と同様に、個性と捕らえて対応すべきではないかという意見があり、今後の検討課題と思われました。また、その対応の仕方をウェブに載せ

ていることの紹介もありました。

我々産業保健スタッフは、発達障害の正しい理解につながるよう、個々に多様性があることを認識し、少なくとも病気としての対応ではなく、障害あるいは個性として捉え、適正職務配置や適正な業務指導のあり方などを考慮していく必要があると、本シンポでは総括されたと思います。



シンポジウム2

高齢化と産業保健ーいきいきと働き続けるためにー

トヨタ自動車 岩田全充



2013年9月27日(金)午前9時から第1会場(名古屋国際会議場4号館白鳥ホール北)にて「高齢化と産業保健」のシンポジウムが開催されました。人口の急速な高齢化とともに産業現場でも60歳以降の労働者が増加する状況に対して、産業保健の果たすべき役割を模索することが本シンポジウムの主旨です。4人のシンポジスト、2人の特別発言者からご講演をいただきました。

亀田高志先生(株式会社産業医大ソリューションズ)からは高齢社会の活性化と財政健全化のために

は生涯現役の実現が必須であり、年齢を考慮した新たな産業保健活動の構築が必要と提言されました。岩根幹能先生(新日鐵住金和歌山製鐵所)からは60歳以上の従業員の調査から、高年齢労働者対策3原則として

- ①見やすく
- ②疲れにくく
- ③余分な力を使わず、

という報告がなされました。川越隆先生(東海ゴム(株))からは高年齢者の転倒災害防止のためにはバランス体操やいきいき体操が重要であり、実践の継続で予防効果があることが示されました。加藤景司社長(株式会社加藤製作所)からは「意欲のある人求

めます。男女問わず。ただし年齢制限あり。60歳以上の方」から始まった「幸齢者」雇用の実態をご紹介いただき、企業の役割をお示しいただくとともに、「いきいきと働く」ことの意味をご提示いただきました。秋元友勝さん（豊田自動織機）からはトヨタグループの高齢者対策として、高齢者が安全に作業ができるような具体的な基準の必要性をご提示いただきました。最後に三觜明さん（中災防健康快適推進室研修支援センター）からは高齢化対策はつまるところ作業員全員の対策であり、基本は職場のコミュニケーションであるとお纏めいただきました。

各演者とも実践に基づく具体的な話題を提供いただき、参加者の多くから大変意義のあるシンポジウムとの評価をいただきました。産業保健の役割の深掘りができなかったことが反省点です。高齢化対策は各企業とも緒についたばかりです。今後、先進企



業のベストプラクティスを共有するための継続的な活動が望まれます。

シンポジウム 3

メンタルヘルスとデンタルヘルス

愛知学院大学歯学部 加藤 一 夫



メンタルヘルスとデンタルヘルスという語感似つつも、全く異質な2つの領域を結びシンポジウムが開催されました。まず、北里大学精神科の宮地先生からは精神的問題の口腔への関与について、名古屋

市で開業されている澤田先生からは味覚異常について、日立横浜病院の澁谷先生からは歯科心身症について、最後に、島根大学公衆衛生学の井上先生からは精神・歯科・社会医学等の連携の必要性について説いていただきました。労働者がメンタルヘルスの不調に気づかず、デンタルヘルスの問題として捉えてしまう場合には、その気づきを歯科からサポートできる可能性があること、また、メンタルヘルスに問題のある労働者では、心理面や身体面および行動面の変化が口腔に影響する恐れのあること、そうした相互の役割が伝わ

るシンポジウムとなりました。本シンポジウムを端緒として、メンタルヘルスとデンタルヘルスの関わりについて、少しでも認識を深めていただくことができたなら幸いに思います。



シンポジウム4

パーソナリティ障害～職場でどう対応する

三菱東京UFJ銀行健康センター(名古屋) 寺澤哲郎



おそらく本学会初の、パーソナリティ障害に絞ったシンポジウムが開催されました。精神科専門医、現場の産業医・産業看護職、弁護士、外部EAP機関の演者がそれぞれの立場で発表された後、職場での対応を中心に議論が行われました。初めての試みであり、問題提起の範囲にとどまった感もありますが、重要な点がいくつか指摘されました。まず、パーソナリティ障害を持つ方への職場での具体的対応について、各演者の話を総合して

- ① 就業規則などに基づいて事実を淡々と本人に伝えること
- ② 一貫した態度で臨むこと
- ③ 問題が大きくなるに従い段階的に大きな枠組みで対応するようにすること

- ④ 産業保健職としては共感的な態度を基本にすること

の4つのポイントが示されました。また、障害を持つ方という形で区別するのではなく、パーソナリティの偏りという観点から全てのケースに普遍的な取り組みを行うことも提唱されました。本シンポジウムを契機に、本学会でもこの問題への取り組みが進んでいくことを期待したいと思います。



シンポジウム5

がんを抱えながらの就労を考える

名古屋第二赤十字病院 一般消化器外科 赤羽和久



がん経験者に対する就労支援についてのシンポジウムを開催しました。がん対策推進基本計画(平成24年)における重点的に取り組むべき課題として、「働く世代や小児へのがん対策の充実」が加わり、がん経験者への就労支援の在り方が注目されています。シンポジウムの冒頭で、本分野の第一人者である国立がん研究センターの高橋都先生から、総論的な話題ならびに数々の取組に関して報告がありました。次に、産業医・産業看護職・臨床医のそれぞれの対場からみたがん経験者への就労支援の在り方について、立石清一郎先生(産業医科大学)、渡井いずみ先生(名古屋大学)、私の順で発表を行いました。聖隷浜松病院の金容壺先生からは就労に影響する化学療法についてご発表頂き、その後、総合討論を行いました。

司会の武藤繁貴先生(聖隷健康診断センター)の円滑な進行により、会場からの質問や意見が多く寄せられ非常に一体感のある討論でした。産業保健と臨床との合同討論を行う機会が少ないことから、本シンポジウムは大変有意義であったと考えます。今後もこのような機会を増やし、がん経験者への就労支援の取組が広がっていくことを願っています。ご協力いただきました皆様方に心よりお礼申し上げます。



連携事例アラカルト

四日市看護医療大学 後藤由紀



大同特殊鋼(株)と東海市が連携協力して実施している生活習慣病対策はとてもユニークな内容でした。地域職域連携＝情報交換レベルの連携が多い中、健康プログラムを行政サイドが提供・実施している

事例は、先駆的であり興味深いものでした。双方の保健職の働きかけとトップの理解があつての良好連携事例だと感じました。

次に、筆者が三重産業看護研究会での四日市看護医療大学と産業保健看護職の連携について報告しました。それぞれの活動を見える形にし、大学と現場が対等でお互いのメリットを感じ、共通の未来像を描きながら活動していることを強調させて頂きました。

最後は、三菱重工業と地域医療機関の連携について、医師会研修会での発表経験や看護学生の実習受け

入れを通じて、保健師が感じた医療機関との連携の重要性と看・看連携について提言がなされました。

それぞれの発表で強調された「理想(目的)を見据えた活動」「連携する相手の理解」「トップの理解を得ての活動」が本セッションの横糸となり、3つのアラカルト事例を繋ぐことができ、一貫したキーワードが得られた興味深いセッションでした。



大学では初めての四部会合同セミナー

愛知教育大学保健環境センター 榊原洋子



2004年の国立大学法人化から10年、私立大も含めて安全衛生活動が活発になってきていますが、なお課題は多くあります。こうしたなか、第11回四部会合同セミナーは、初めて大学で実施されました。

開催日が、大学の都合で9月13日にセミナー、26日に発表会となりましたが、29名(非学会員の大学安全衛生担当者6名含む)に参加頂きました。参加者は、5班に分かれ、教育研究の場である大学の特性に合わせたアクションチェックポイントを手に、化学研究室、鋳金工房、木工工房、科学ものづくり工房、図書館事務室を訪れ、安全衛生上の良好事例と改善が望まれる箇所と改善策を議論しました。その結果、教職員や学生によるさまざまな工夫とともに、転倒防止、安全装置、手根管症候群の予防など多くの課題の指摘がありました。衛生管理者である

私が看過していた課題もあり、多くを学びました。約50名が参加した発表会では、各班の報告に、フロアから多くの質疑や助言があり、副学長から、今回のセミナーの成果を活かして安全衛生水準を高めたいとの謝辞があった後、圓藤理事長から大学に感謝状が贈呈されました。



第22回産業衛生技術部会を開催して

(株)グッドライフデザイン 加藤 隆 康



産業衛生技術部会の秋の行事として、第23回産業医・産業看護全国協議会に合わせ第17回産業衛生技術専門研修および第22回産業衛生技術部会大会を開催しました。今回の開催では産業医・産業看護全国協議会の斎藤企画運営委員長をはじめ関係者の皆様

に多大なるご協力とご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

産業衛生技術部会は、労働衛生のレベルアップを図るため所属する会員だけでなく労働衛生の最前線で活動する企業の衛生管理者や作業環境測定機関の作業環境測定士等広くご参加いただくことができるように、協議会とは別に開催をしています。また、産業医や産業看護職の先生で産業衛生技術部会に所属しておられる先生も多く、前回より技術部会大会等にも参加できるよう同じ場所で同時に開催しています。

さて、今年度は下記のようなテーマで開催しました。

1. 第17回産業衛生技術専門研修会「産業現場の呼吸用保護具」

① 作業現場での経験より

田中 茂 (十文字学園女子大学大学院)

- ② 企業事例を中心に
中原 浩彦 (EMGマーケティング合同会社)
- ③ フィットテスト実技指導
興研(株)、(株)重松製作所、スリーエムヘルスケア(株)
実技指導があり、定員25名の少数でしたが呼吸用保護具の正しい着用の仕方をしっかりと確認でき充実した研修会となりました。

2. 第22回産業衛生技術部会大会「化学物質管理」

- ① 化学物質管理に関する行政の動向
名古屋 俊士 (早稲田大学理工学術院)
- ② リスク管理にもとづく化学物質管理
武田 繁夫 (武田労働衛生コンサルタント事務所)
- ③ 事業場における化学物質管理の実際
片岡 直也 (豊田自動織機(株))

50名弱の参加者でしたが、学会員以外の参加もあり、化学物質管理の今後の方向性や実際に企業で行われている化学物質のリスクアセスメント、職場での管理の実際等化学物質管理の全体を幅広く学ぶことができ、また、質疑も活発に行われるなど大変有意義な大会となりました。

次回の大会も同時開催を計画しており、先生方の職場の衛生管理者等の積極的な参加も期待しています。

産業看護部会研修会を開催して

(株)ジェイテクト 杉本 日出子



産業看護部会は9月28日に「安衛法改正・ストレスチェック(9項目)実施に向けて～産業看護職が果たす役割と必要なスキルを考える～」をテーマに、前半は五十嵐千代先生(東京工科大学)、古井景先生(愛知淑徳大学)、吉田契造先生(デンソー)

によるシンポジウム、後半はグループ討議を行いました。シンポジウムでは、ストレスチェックが義務化された場合を想定し、産業看護職の役割と必要なスキルについて議論しました。五十嵐先生はメンタルチェック義務化法案に至るまでの背景とプロセスについて話され、産業看護職の役割として、ハイリスク者に対して、メンタル不調の確認と労働状況の把握、本人の同意があったのちの適切な事業者への報告、継続的なフォローアップが必要であると話されました。古井先生は精神科医、臨床心理士の立場で、『メンタルヘルス』とは精神心理的健康が維持されている状態の者を対象として考えるということです。自己記入式

質問紙法は『心の健康さ』が保たれている者で現実検討能力が高く、自己認識と現実の状態に不一致が無い状態でのみ利用されます。自己認識が空想的なために現実適応が困難となっているメンタル不調者(新型うつ病、適応障害、パニック障害など)に対しては、自己記入式質問紙法は適応外(用いてはならない)となります。現実検討能力が障害され病識が欠如する精神障害者圏の場合は自己記入式質問紙法の使用は困難となると話されました。吉田先生は産業医の立場で、9項目のストレスチェックの妥当性・信頼性に関する懸念と真の助けが必要な人ほど質問紙に正直に回答しない可能性があることを指摘され、ストレスチェックの結果で判断するよりは印象的評価が重要であり、面接を繰り返すことで、印象的評価の精度を上げ、人間関係の醸成もでき、好不調の本当の話をしてもらえることが期待できると必要なスキルについて話されました。後半のグループ討議では、導入に当たっての問題点や実施する上での課題についての意見交換を行い、産業看護職としてストレスチェックにどのように取り組むかを共に考え、議論を深めることができました。

開 催 報 告

平成25年度日本産業衛生学会東海地方会総会ならびに研修会

東海学院大学・犬山病院 黒川 淳一



平成 25 年度の地方会総会は、平成 24 年度の地方会学会に続いて、JR 岐阜駅前じゅうろくプラザにて、6 月 22 日に開催致しました。ギリギリまで台風が迫っており、開催を危ぶみもしましたが、台風一

過、当日は 84 名様からの御参加を頂きました。企画運営委員会一同を代表し、まずは深謝申し上げます。

岐阜県当番時における当学会総会といえば、これまで永年にわたり加藤保夫先生（財岐阜県産業保健センター）が中心になって幾度となく開催されてこられました。おそらく今回も西柳ヶ瀬にある会場での開催を連想された方もおいででしょうが、これを機に、より利便性の高い会場への変更を試みました。また、日医認定産業医更新単位の発行については、極力、実地研修としての申請を行ったことや、産業看護職実力アップコース単位の付与など、参加者を一人でも多く募ることができるよう“仕掛け”を試みました。

結果は、と申しますと、平成 20 年度岐阜県開催時に 97 名様のご参加を頂いていたようで、先人諸兄らの運営力にはまだまだ及ばない点を反省しているところです。

小職の力不足で周知が行き届かず、申し訳ない限りですが、当日はいずれも興味深い御講演を頂きました。

研修会としては、3 題の特別講演を頂きました。まず岐阜大学産業衛生学分野 井奈波良一先生から、熱

中症に関する御講演を頂きました。続いて岐阜県スポーツ科学トレーニングセンター 川口純子先生から、実技中心でストレッチングを御指導頂きました。さらに岐阜大学精神病理学分野 塩入俊樹先生からは、うつ病防止にまつわる運動療法やリラクゼーションなどについて御講演頂きました。

特に実地研修については、ストレッチやリラクゼーションを交えて、和やかなうちに研修が行われたことは、記憶に残る企画となったのではないのでしょうか。

岐阜県下における会員数の不足は、魅力ある企画をもって巻き返しを図りたいと考えております。“世代交代”を進めていくさ中、至らぬ点が多数あるかとは思いますが、今後とも、皆様からの御指導を賜ります様、どうぞ宜しくお願い致します。



会 員 の 声

新理事就任のご挨拶

ヤマハ株式会社 上原明彦



この度、日本産業衛生学会東海地方会の理事を拝命致しました。私の略歴、現在取り組んでいる業務、抱負についてご紹介させていただきます。私は昭和63年に産業医科大学を卒業いたしました。そ

の後は臨床医として、総合内科専門医・循環器専門医・博士号等を取得し、内科・循環器科に20余年に渡り従事して参りました。平成20年にヤマハ(株)健康管理センターの当時の倉田所長からお誘いを受け、ヤマハの産業医として着任致しました。先輩や同僚・スタッフからの協力・薫陶を受け、非力ながらも労働衛生コンサルタントの資格を頂戴することが出来ました。

現在行なっている業務としては、社内施設の健康管理センターで行われる年間約5,000人の受診者に対す

る健康診断の実務分担および約2,400人規模の本社事業所での産業医活動をしております。また、ヤマハ(株)、国内・国外グループ会社での心身の健康管理やその仕組みづくりをサポートしている産業医の後方支援を行っております。

弊社においても喫煙対策、メンタル対策、海外駐在者・グループなどの健康管理の標準化など課題は山積しています。こうした課題は弊社のみならず多くの学会員も抱えている課題であり、学会員皆様との議論を通してより良いものを目指して努力していきたいと思っています。

地方会の理事としては経験も浅く微力ではありますが、弊社での地道な産業保健活動および学会活動を通して、産業保健全体の発展のために鋭意努力して参りたいと思っております。今後共ご指導ご鞭撻の程、どうぞよろしくお願い致します。

新理事就任のご挨拶

キヤノン株式会社 富士裾野リサーチパーク 池田友紀子



この度、日本産業衛生学会東海地方会の理事を拝命し、身の引き締まる思いです。私は、2006年にキヤノン株式会社富士裾野リサーチパークに専属産業医として初めて着任いたしました。弊社事業所で

は、現在約1,400名の従業員が在籍し、レーザービームプリンターやトナーなど電子写真技術の研究および製品開発を行っております。現在行っている主な業務としては、各種健康診断の事後措置、メンタルヘルス対策、化学物質の管理です。研究開発業務のため非正常作業が主で、事業所内では多種の化学物質の取扱いがありますが、着任当初は、従業員の化学物質等への知識が安全衛生面に十分活用されていない場面もありました。産業医として作業環境管理に関する委員会に携わったことで、少しずつではあ

りますが、安全衛生面への意識が徐々に高まってきていることを実感しています。

弊社の初代社長の御手洗毅が医師だったこともあり、「健康第一主義」が経営の柱のひとつに掲げられています。従業員の高齢化に伴う疾病構造の変化、社内での業種変更が目立つようになり、今後もその傾向は加速していくことが予想され、各事業所に共通する課題となっています。キヤノングループ全体として産業保健活動の標準化が進んできています。これからは、産業保健活動は事業所内での活動をしながら、キヤノングループ全体での課題について、どのように標準化していけば効果が得られるのかということを中心に考えながら、活動していきたいと考えています。

至らない点多々ありますが、今後とも皆様からの御支援、御鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い致します。

転入、事務局長就任のご挨拶

愛知医科大学 梅村 朋広



「東海地方会かぁ。どんな感じなんだろう」

平成25年5月、前任の福井大学から愛知医科大学へ移り、柴田会長から事務局長を拝命した時、真っ先に頭に浮かんだのはそんな思いでした。北陸甲信越

地方会でも事務局を担当していたので、おおよその規模や著名な先生方のことは分かっていたのですが、雰囲気などは一切分からないままの不安な事務局スタートとなりました(最近、やっと慣れてきました)。

東海地方会には80年近い歴史があります。それゆえ、支えてこられた諸先輩・先生方に顔向けできないようなことがあってはなりません。そして、さらに発展できるように尽くさなければなりません。前任の赤松先生がかなりしっかりやっていたらと聞いておりますが、不器用な私には同じレベルで切り盛りすることはできないと思います。自分は自分らしく、シンプルで柔軟性のある事務局を目指して頑張っていく所存です。ご意見やご提案がございましたら、いつでもお寄せください。

さて、私個人のことでありますが、学位は有機溶剤に関連するものでしたが、現在は、産業衛生学はもとより、国際保健学(らしきもの)から地域保健学(らしきもの)まで、社会医学を幅広く“Think Globally, Act Locally”に取り組んでいます。また、趣味らしき趣味はないのですが、日々の仕事や生活に追われる反面、自由を求める気持ちが強いのか、旅に対する憧れがあり、今更ながら沢木耕太郎をはじめ旅小説にはまっています。そして、典型的な名古屋ライフ(長久手ですが)を心地よく感じる質らしく、のんびり喫茶店モーニングで始める休日が好きです。ビール、ウイスキーのおいしい北海道や日本酒のおいしい福井に住んでいたこともあって、左党でもあります。愛知のお酒は、醸し人九平次と蓬萊泉が好きですが、東海地方会を構成する静岡、岐阜、三重にもおいしいお酒がたくさんあると伺っております。オススメがあれば、どうぞご紹介ください。超の付く人見知りですが、どこかで、皆様とご一緒できることを楽しみにしております。

話がおかしな方向に進んできましたので、このあたりで失礼させていただきます。

転入、ニュース編集委員就任のご挨拶

新日鐵住金(株)名古屋製鐵所 守田 祐作



この度、日本産業衛生学会東海地方会へ新規加入し、地方会ニュース編集委員を拝命致しました。新日鐵住金(株)名古屋製鐵所の守田祐作です。

私は平成19年に産業医科大学を卒業し、2年間の臨床研修を終え、医師3年目に新日本製鐵(現:新日鐵住金)株式会社君津製鐵所で産業医の修練を行いました。その後、産業医科大学にて運動や禁煙を通じた労働者の健康増進を研究する健康開発科学に所属し、研究業務と嘱託産業医(15社)を3年間行って参りました。

大学在籍中に産業医科大学では初となる男性医師の育児休業を約1年間取得しました。育児の大変さや仕事との両立には大いに悩まされましたが、日々成長する娘を見守る楽しさに目覚めたり、育児と仕事の両立を考えることで業務効率が大きく改善するという意外な育児の

効用を発見したりと有益な経験でした。

平成25年4月より新日鐵住金(株)に就職し名古屋製鐵所へ赴任しました。工場萌えの私は再び鉄鋼業の産業医ができることに喜びを感じています。3年目と同じ会社に就職しましたが、名古屋製鐵所ならではの特徴(自動車用鋼板がメイン、夏が蒸し暑すぎる等)があったり、3年目の時には見えなかったものが見えるようになっていたり刺激も多く、日々楽しく仕事できています。

今年度は大学で学んできたPM2.5の測定方法、データ解析の手法を活かし製鐵所内の喫煙対策に力を入れています。喫煙室内のPM2.5濃度を測って回ったり、労災データと健診データを突き合わせて喫煙者の方が1.49倍業務中の怪我が多いことを示すなど、あの手この手で所内禁煙化に向けて画策中です。

地方会ニュース編集委員として微力ながら皆様に貢献していければと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

大学教室の紹介

岐阜県立看護大学成熟期看護学領域の紹介

岐阜県立看護大学成熟期看護学領域は、領域責任者の奥村美奈子教授以下、12名の教員で構成されています(写真)。今回は、産業看護を担当する私(梅津美香)が成熟期看護学領域の活動を紹介します。

成熟期看護学領域とは

「成熟期看護学って何ですか?」とよく聞かれます。あまり聞きなれないかもしれませんが、ライフサイクルとして思春期後期から老年期までの人々を対象とした看護学領域です。岐阜県立看護大学では4つの専門領域が設置されており、そのひとつになります。

多様な健康課題をもつ成熟期の人々を対象に、様々な場で展開する看護を追究しています。産業看護・産業保健もその中に含まれます。

教育

各教員の専門領域は、広範囲にわたっており、がん看護、成人・老人看護、神経難病患者への看護、認知症高齢者看護、退院支援等です。産業看護を専門としている教員は1人ですが、実習等においては、各教員が互いに協力して専門領域に限定せずに担当しています。

ここでは産業看護・産業保健の教育について紹介します。1年次の後期に15回30時間の講義があり、働く人へのインタビューや体験学習等を行います。3年次に成熟期看護学領域別実習がありますが、産業看護については、その中で「労働の場における看護」の実習として、80人全員が数人ずつのグループに分かれ2日間、事業所等で実習を行います。工場内見学や保健指導の実施などを行い、医療機関や高齢者ケア施設等とは異なる看護活動・保健活動を学んでいます。4年次の卒業研究では、希望者は事業所で1年をかけて実践に取り組み報告書をまとめます。

研究

成熟期看護学領域としては、模擬患者演習による学び、領域別実習における実践と理論の統合をテーマに全員で教育研究に取り組んでいます。

また、岐阜県立看護大学では実践現場の看護職の方々と日常の看護業務の改善・充実に直結した共同研究活動を行っています。この共同研究の過程で、私たち教員は現場の看護の課題を知り、看護職の方々と共に看護実践の工夫改善に取り組み、それが教育内容の充実につながっています。成熟期看護学領域の教員が取り組んでいる共同研究のテーマは下記の通りです。

- 働く人びとを対象とした質の高い保健指導の実現に向けた取り組み
- 在宅療養を希望するがん患者の意向を尊重した看護支援の充実にに向けた取り組み
- がん患者の在宅療養支援体制充実にに向けた取り組み
- 中堅看護師育成のための実践の振り返りを用いた院内教育プログラムの検討
- 慢性疾患を有する患者の看護支援に関する実践知の探究
- リンパ浮腫に対する看護が必要な患者への継続支援の充実にに向けた取り組み
- 特別養護老人ホームにおける看護職と介護職の円滑な連携に関する実践の検討

12人のメンバーが互いに協力し合い、教育研究活動に従事しています。チームワークとフットワークがよいのが取り柄です。



後列左より、窪内敏子講師、星野純子講師、布施恵子講師、斉木良美助教、浅井恵理助教、宇佐美利佳助教、堀田将士助教
前列左より、北村直子准教授、梅津美香教授、奥村美奈子教授、田村正枝教授、古川直美准教授

事務局から

地方会理事会

平成25年度 第2回理事会

日 時：平成25年8月31日（土）
10：00－12：00

場 所：中部大学名古屋キャンパス
(6 階・610 講義室)

【議題】

- I. 前回理事会議事録（案）の確認
- II. 報告事項
 - 1) 本部理事会報告事項
 - 2) 地方会事務局報告事項（会員状況）
 - 3) 平成25年度日本産業衛生学会東海地方会総会ならびに研修会（開催報告）
 - 4) 平成25年度日本産業衛生学会東海地方会学会
 - 5) 第23回産業医・産業看護全国協議会
 - 6) 平成25年度産業保健スタッフのための研修会
 - 7) 部会・研究会
 - 8) 愛知県医師会産業保健部会
 - 9) 地方会ニュース
 - 10) その他（関連学会）
- III. 協議事項
 - 1) 平成26年度総会ならびに研修会
 - 2) 平成26年度地方会学会
 - 3) 東海地方会名誉会員
 - 4) 次回開催
 - 5) その他

平成25年度 第3回理事会

日 時：平成25年12月7日（土）
10：00－12：00

場 所：中部大学名古屋キャンパス
(6 階・610 講義室)

【議題】

- I. 前回理事会議事録（案）の確認
- II. 報告事項
 - 1) 本部理事会報告事項
 - 2) 地方会事務局報告事項（会員状況）
 - 3) 第23回産業医・産業看護全国協議会（開催報告）
 - 4) 平成25年度日本産業衛生学会東海地方会学会（開催報告）
 - 5) 平成25年度産業保健スタッフのための研修会
 - 6) 部会・研究会

7) 愛知県医師会産業保健部会

8) 地方会ニュース

9) その他（関連学会）

III. 協議事項

1) 平成26年度総会ならびに研修会

2) 平成26年度地方会学会

3) 平成27年度総会ならびに研修会

4) その他

5) 次回開催

本部会員の異動 (2013.6.1 ~ 2013.11.30)

【新入・再入会員】

愛知

- | | |
|---------|------------------------|
| ①渡会 敦子 | (中部ろうさい病院) |
| ②中村 和美 | (東海郵政健康管理センター) |
| ③丹羽 理恵子 | (デンソー) |
| ④郷田 妙美 | (南山大学) |
| ⑤諫山 優美 | (南山大学) |
| ⑥笠井 明日香 | (日本特殊陶業) |
| ⑦金井 彰夫 | (中部ろうさい病院) |
| ⑧三宅 敦子 | (トヨタ自動車健康保険組合) |
| ⑨瀬戸 加大 | (愛知県がんセンター研究所) |
| ⑩丹羽 真樹 | (トヨタテクニカルディベロップメント(株)) |
| ⑪鈴木 日美子 | (名古屋市立大学大学院) |
| ⑫仁瓶 宗樹 | (三菱重工業(株)) |
| ⑬畔柳 司 | (司歯科医院) |
| ⑭國井 千晴 | (東芝ヒューマンアセットサービス(株)) |
| ⑮飯田 真智子 | (名古屋大学医学系研究科) |
| ⑯大野 豊樹 | (河村電器産業(株)) |
| ⑰矢嶋 伊知朗 | (名古屋大学医学系研究科) |
| ⑱大神 信孝 | (中部大学生命健康科学部) |

静岡

- | | |
|---------|-----------------|
| ①望月 友美子 | (静岡県立大学) |
| ②相模 年恵 | (スター精密) |
| ③實沢 理恵 | (ジヤトコ) |
| ④杉山 英子 | (静岡県産業労働福祉協会) |
| ⑤福沢 麻里子 | (静岡県産業労働福祉協会) |
| ⑥福田 崇典 | (社会福祉法人聖隷福祉事業団) |
| ⑦小池 亜矢子 | (ジヤトコ(株)) |
| ⑧渡邊 真理 | (ジヤトコ(株)) |
| ⑨古村 真樹 | (ジヤトコ(株)) |

- ⑩土屋 陽子 (ジヤトコ株)
 ⑪井口 真美子 (大興製紙健康保健組合)
 ⑫福島 優子 (ジヤトコ株)
 ⑬佐藤 茜 (株明電舎沼津事業所)
 ⑭前田 裕子 (ローランド株)
 ⑮亀井 達也 (社会福祉法人聖隷福祉事業団)
 ⑯内海 裕子 (聖隷保健事業部地域・企業センター)
 ⑰木村 玲美 (浜松総務部(有))

岐阜

- ①宮川 敬子 (東レ株)
 ②小川 真緒 (イビデン株)
 ③南屋敷 美幸 (大豊岐阜株)

三重

- ①高橋 一矩 (東芝)
 ②藤谷 陽子 (住友電装)
 ③田中 美香 (住友電装)
 ④橋本 泉 (住友電装)
 ⑤豊田 芳美 (日本トランスシティ)
 ⑥一尾 多佳子 (医療法人社団大和会日下病院)

【転入会員】

愛知

- ①瀧口 好三 (新日鐵住金株)

三重

- ①田代 廣隆 (三菱化学株)

【退会会員】

愛知

- ①田中 則江 (ファイザー・ファーマ)
 ②山田 文 (NTT ドコモ)
 ③中嶋 由香 (名菱テクニカ)
 ④宮崎 豊 (豊田自動織機株)
 ⑤足立 はる彥 (中部大学)
 ⑥中村 和子 (はねっと)

静岡

- ①山田 葉子 (ローランド株)

岐阜

- ①水野 由美 (一般社団法人ぎふ総合健診センター)

【転出会員】

愛知

- ①島田 祥代 (ブラザー工業)

三重

- ①近藤 信子 (四日市看護医療大学)

【地方会内転入出】

- ①加藤 桂三 (日本特殊陶業)
 ②高山 直子 (朝日大学)

これからの行事予定

(1)地方会関連学会・研究会等

①第26回産業保健スタッフのための研修会

日 時：平成26年2月22日(土)

10:00~17:00

会 場：名城大学薬学部新1号館7階

ライフサイエンスホール

事務局：愛知医科大学医学部衛生学講座内

日本産業衛生学会地方会事務局

Tel&FAX: 0561-62-3580

②産業歯科部会 第8回研修会

日 時：平成26年2月2日(日)

10:00~12:00

会 場：アイリス愛知

講 演：「衛生学 四方山話」

中垣 晴男先生

(愛知学院大学名誉教授)

③東海地方会・第27回振動障害研究会

日 時：平成26年2月15日(土)

14:00~16:30

会 場：名古屋大学医学部保健学科

(大幸キャンパス)本館1階 大会議室

演 題：

「2009年7月10日発出指針について」

前田 節雄先生(近畿大学・教授)

「振動工具管理責任者向け簡易型手腕振動計測装置の開発」

前 忠良(株式会社大興)

「振動工具管理責任者向け講習会の案」

前田 節雄先生(近畿大学・教授)

機器のデモ

清水 和也(株式会社DEED)

問合せ先：名古屋大学大学院医学系研究科

(保健学)榊原 久孝

Tel&FAX: 052-719-1923

E-mail: sbara@met.nagoya-u.ac.jp

④第5回産業衛生学術研究討論会

日 時：平成26年2月15日(土)

13:30~16:30

場 所：名古屋市立大学医学部 新厚生会館

テーマ：産業衛生学術研究、何がしたい、何ができる？

参加費：無料

内 容：第一部 学術調査研究を求めて

- 1) 守田 祐作
(新日本製鐵住金(株)名古屋製鐵所)
- 2) 西 賢一郎
(ジヤトコ(株))
- 3) 水口 要平
(三菱電機(株)名古屋製作所)
- 4) 田中 完
(新日本製鐵住金(株)名古屋製鐵所)

問合せ先：大同特殊鋼星崎診療所 斉藤政彦

Tel&FAX：052-611-9437

E-mail：m-saitou@ct.daido.co.jp

講 演：第一部

働く世代のがん治療

～がんになっても働き続けるために

安藤 雄一

(名古屋大学医学部附属病院化学療法
部・教授)

第二部

がんになっても働き続けられる社会を
目指して

斉藤 政彦 (大同特殊鋼)

問合せ先：愛知県健康福祉部健康担当局

健康対策課がん対策グループ

Tel：052-954-6326

(2)本部関連学会・研究会等

①第87回日本産業衛生学会

日 時：平成26年5月21日(水)～24日(土)

場 所：岡山コンベンションセンター、岡山全日
空ホテル、岡山シティミュージアム

(3)その他の学会・研究会等

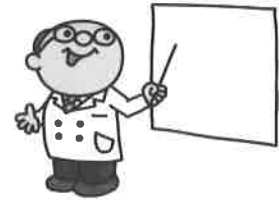
①働く世代のがん対策シンポジウム

日 時：平成26年1月10日(金)

15：00～17：00

場 所：Shine's 3階ホール

参加費：無料(定員150名)



編 集 後 記

今回より編集委員の末席に加えていただきました。情報を受け取る側の立場から発信する側に立つことになり非常に心もとないのですが、有意義な発信をすべく進化する地方会ニュースに携わらせていただく機会をいただいたと考えました。力不足は重々承知しておりますが、地方会ニュースを通じまして少しでも皆様のお役に立つことができれば幸いです。よろしくお願いたします。(河南 文子)

東海地方会ニュース

編集委員長：石川 浩二(三菱重工業)

副編集委員長：西谷 直子(椋山女学園大)

編集委員：池田友紀子(キャノン)

榎原 毅(名古屋市立大)

河南 文子(富士電機)

黒川 淳一(東海学院大学・犬山病院)

後藤 由紀(四日市看護医療大学)

城 憲秀(中部大学)

守田 祐作(新日鐵住金)

山本 誠(ヤマハ)

東海地方会事務局

〒480-1195 愛知県長久手市岩作雁又1番地1

愛知医科大学医学部衛生学講座内

TEL：(0561)62-3580 FAX：(0561)62-3580

E-mail：aratokai@aichi-med-u.ac.jp

印刷・製本

株式会社リョーイン

TEL：(052)412-5251 FAX：(052)412-1440